天武館物語

浦田政八

現在の武道館が建設される前は港町の天武館剣道道場が文字通り天草の剣道のメッカであった。編集部は、忘れ去られようとしている天武館の由来を前会長の浦田政八先生にお願いして書いていただいた。先人の労苦に思いをはせ、私たちは改めて気持ちを引き締めて天草の剣道の隆盛に尽くしたいと思います。浦田先生には深く感謝申し上げます。

天武館について記すことは、天草郡市剣道連盟発刊〔戦後の天草（剣道の歴史）〕の要点を記事しながら物語として会員の皆様にお知らせすることが大事と考えますので、戦後の天草剣道の歴史から引用しながら筆を起こしていきます。

戦後の天草

剣道の歴史　序文

「太平洋戦争の天草の剣道史を編纂するに当たりましては、昭和三十二年現在の港町（本渡市）に我々剣道の愛好者の協議により剣道の稽古場即道場を建設せねばと痛感して、当時の松田正忠、長島安喜、松田克巳、浦田政八氏達と何回も寄り合い建設に踏み切ったのです。幸い五和町城河原の小学校が改築されることを聞き、五和町長宮崎武文氏が剣道に対し理解もあられるお方で、助役の宮崎秀雄氏は友人で、旧校舎を安価で払い下げ願い、その上寄附金迄相談、大変便宜をお計り願い、敷地はこれまた当時の値賀正次郎、本渡市長の格別のお計らいで、市有地を無料で貸代を受け、園田直、吉田重延両代議士始め、本渡市内の有志、宮地岳の中西哲郎氏方々の応援で短時日の間に見事に剣道場天武館の落成を見る事ができたのであります。私は若い頃より剣道が飯より好きで…中略…日本のスポーツの中、剣道だけ進駐軍より禁止を受けたが、私は日本の再建は剣道より外にないと確信し、少なくとも熊本県では最初に始めたのです。当時は学校でも場所は貸さず旧武徳殿もいちいち署長の許可がないと貸してくれず、道場が必要であったのです。今日までお互い苦難の道を切り開き、道の為尽くされた方々の名簿を作り、後進者のため、お互いのため、永く思い出となれば幸甚と思います。企画に当たり、井上賢次君始め諸先生方のご協力誠に感謝にたえません。厚くお礼申し上げます。昭和四十六年六月　堀田藤八」（堀田先生はこの序文を書かれた直後入院され十月十日に亡くなられました。）

○天武館建設の歩み（松田正忠先生の記より略して）

本渡市制施行記念博覧会が現在の町山口川と南川の間の新埋立地のできたばかりの草も未だ生えない中で開催され、その直後区画整理が進んだ頃、天武館建設を企画、敷地確保のため、三道会（剣道・堀田会長、柔道・古賀会長、弓道・松田会長〔松田克巳氏の叔父〕）、会計・浦田政八を結成、陳情等を重ね漸くその緒についたのである。天草郡市剣道連盟堀田藤八会長は東京にて約一ヶ月半を費やして拾参万円の寄附金を持ち帰りいよいよ行動が具体化したのであった。町内に於いては〔日掛講〕を仕立て市内全域に亘り、商店、医院、料亭、旅館、あらゆる職域に呼びかけ趣意書を配り、協力を真剣に呼びかけ遂に成功、金百四万八千円寄附金を集めたのである。然しながら日掛講は二年半を要し、殊金銭に関することだけに種々予期しない突発障害が発生し、言語に絶する苦労であった。寄附金の外に会員数十名の負担金弐拾五万弐千円合して金百参拾万円をもって建設費に当て、落成式まで漕ぎつけたので関係者はホッとしたものである。

天武館の場所は現在の美来プラザの敷地である。美来プラザの建設は平成十一年十一月である。天武館は昭和三十二年建設以来約三十年剣道連盟の所有であったが、昭和六十二年末に敷地を市に返還することになり、それ以後は市の武道館が練習場となり、少年剣士の指導も武道場で実施することとなった。返還当時は松田会長、樫木副会長である。敷地返還するかわりに武道場使用を無料にしてくださるよう数度交渉されたが、市条例で使用は有料であるので剣道だけ許可はできないと通告されたのである。市は勤労者福祉会館（美来プラザ）を急いで建設するとのことで天武館を市に返還、そのかわりに剣道連盟に金四百万円を謝礼として連盟に贈られた。この件は松田、樫木両先生の交渉のためであった。両先生に感謝の念でいっぱいである。金四百万円の基金があり剣道連盟の会計が赤字になった場合、その利息を利用したり、銀行より借りたりして運営が楽になったのである。それ以前は寄附金や堀田会長、松田副会長におねだりして出していただいたり、会員に負担をお願いして道場の修理、畳替え、試合出場費用を拠出していたのである。

地鎮祭（昭和三十二年十一月）及び落成式（十二月）

落成式では堀田会長の多くの方々、諸団体への感謝の挨拶があり、来賓祝辞のあと、堀田会長打太刀、松田会長仕太刀の日本剣道形の披露があり、その後祝宴となった。

○天武館の意義

天武天皇皇子、大友の皇子が地に矛を逆さまに立て、神術をなさせしことが古事記にあり、之を剣道の始めということで天草の剣道道場を天武館と命名することにした。（名付け親は熊本市出水町剣道道場主、故八段範士紫垣正弘先生である）現紫垣正光先生の厳父。

○天武館要領

一、我等は剣道の錬磨により体位の向上と真の剣道精神を体得する。

二、自己を剣道により完成し以て地域社会を明るく発展させ、日本の興隆と世界の平和に貢献する。

○少年剣士の募集

落成式も盛大に終わったあと、この後の天武館の定欽、運営規則等は松田先生に草稿をお願いすることに決定し、大人の稽古を始めたが、参加する者はかぎられた数人であった。青少年育成が堀田先生の遺志であったことから、少年剣士を募集する話し合いとなった。大人の稽古だけでは児童生徒の募集はむずかしいだろうと、当時浦田が本渡北小学校に剣道教室を開いて児童に教えていたことから、天武館に引率してくるように話し合いがなり、四十余名の児童で竹刀の音をひびかせたのが始まりで、その後、本渡南小学校に呼びかけ、または直接保護者を説き、募集したものである。天武館隆盛時代は百名に近い少年剣士の錬磨の道場となったのである。

三地区親善剣道大会優勝

八月二十六日（日）長崎県の島原市立有馬武道場で開催されました。貸し切りバス、自家用車などで鬼池フェリーを利用し、参加しました。学生の部、一般の部とも優秀な成績で見事総合優勝を飾りました。選手、役員、応援の皆様大変ご苦労様でした。